

産業構造審議会保安・消費生活用製品安全分科会
ガス安全小委員会（第32回）
議事要旨

○ 日時：令和7年12月3日（水曜日） 14：00～16：00

○ 場所：オンライン開催

○ 議題：

（1）「ガス安全高度化計画 2030」の中間評価及び見直しの方向性について【審議】

（2）南海トラフ巨大地震に関するガス工作物の耐性評価等について【審議】

（3）その他【報告】

○ 出席者：

委員長：瀧谷委員長

委員：入江委員、川島委員、岸野委員、倉田委員、庄司委員、鳥海委員、久本委員、藤田委員、古川委員

オブザーバー：一般社団法人日本ガス協会 猪股技術部長、一般社団法人日本コミュニティーガス協会 諸星技術部長

事務局：湯本技術総括・保安審議官、石津ガス安全室長他

○ 議事概要

各議題の審議状況、委員の発言は以下のとおり。

（1）「ガス安全高度化計画 2030」の中間評価及び見直しの方向性について

事務局から資料1-1について、日本ガス協会から資料1-2について、日本コミュニティーガス協会から資料1-3について説明した後、委員等から次の意見があった。

- ・ 消費段階の事故防止について
 - 繼続的な取り組みが必要
 - 警報器の普及促進については、進めていただきたい。広報の拡充など国も率先した活動が必要
- ・ 業務用需要家・厨房設備の安全対策について
 - 業務用需要家向けの機器はプロ仕様のため家庭用に比べ比較的規制が緩やかなので、粘り強い周知啓発の継続が必要
 - 外国人が働いている飲食店が増加しているため、多言語対応の周知・啓発もお願いしたい
 - 業務用厨房事故件数が、少ないが増えているように見えるので要注意
 - 換気系統（フィルター、防虫網、防鳥網）のメンテナンスが重要
 - 業務用レンジの立ち消え安全装置搭載は有効であり、普及促進の検討を進めていただきたい
 - 換気設備の清掃・点検や従業員教育訓練の徹底、一酸化炭素警報器の普及促進が重要
- ・ 消費段階の一般需要家事故防止について
 - 高齢者を意識した周知啓発も強化してほしい

- ・ 広報・教育について
 - Xによる広報活動は若年層に効果的。ポストの一つのガス事業者への連絡というところで、地域の事業者検索サイトにリンクできると事故の未然防止に繋がるのではないか
 - Twitterなど得意としない需要家にも届くよう周知・啓発がなされることをお願いしたい
 - 一般の方向けの教育として、研修の成果になるような国家資格とは違った仕組みがあると知識を得やすいと思う
- ・ スマート保安について
 - 少子高齢化が進む中、スマート保安・スマートメーターの普及は不可欠。中山間地・沿岸部で特に有効。災害時の遠隔開閉栓で早期復旧に繋がる。国による補助金などのなんらかの支援を要望
- ・ 災害対策について
 - 災害時連携計画について、応援する側と受ける側の連携が重要
- ・ 全般
 - 死亡事故については、他機関の専門家により検証する仕組みを導入してもよいのではないか
 - 死亡事故ゼロに向けて、ガス関連産業で働くものとしてしっかり取り組む。政府には、見直しを踏まえた環境整備をお願いしたい
 - ガス業界全体でこの基本に立ち返って、今回の安全高度化計画の見直しも踏まえた事故の再発防止の取り組みを一層強化してまいる所存

(2) 南海トラフ巨大地震に関するガス工作物の耐性評価等について

事務局から資料2-1について、日本ガス協会から資料2-2について説明した後、委員から次の意見があった。

- ・ 南海トラフ巨大地震の特性と想定について
 - 発生域が広範囲で、巨大津波が想定されるとともに、後発地震の可能性などを考慮した検討が必要ではないか
 - 液状化、長周期地震動、長時間の揺れ、広域災害など多面的な影響が想定される。総合的にみていただくことを期待
- ・ 設備性能・維持管理について
 - 評価は新設同等性能を前提としているが、経年劣化や環境による性能低下が避けられない部分があるため、点検、補修の取組についてもより一層充実を図っていただきたい

(3) その他

事務局から、次回の小委員会の日程は改めて連絡する旨説明があった。

○お問い合わせ先

産業保安・安全グループガス安全室

電話：03-3501-1511（内線 4932）